

# 令和7年度森林施業プランナー認定試験 一次試験

## 問題冊子

令和7年6月22日(日)

森林施業プランナー協会

問 1

「生物多様性」の取り組みに関する以下の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	日本にある世界自然遺産地域の陸域面積の約 5 割は国有林野が占めている。
(イ)	現行の「生物多様性国家戦略」では、2030 年までに、陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする「30by30 (サーティ・バイ・サーティ) 目標」を掲げている。
(ウ)	林野庁は、森林管理を担う林業事業者等を対象に「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を取りまとめた。
(エ)	「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」を踏まえて、政府は「ネイチャーポジティブ (自然再興)」を 2030 年までの主要な目標とする新しい「生物多様性国家戦略」を策定した。

問 2

花粉と森林、特にスギ人工林の関係について説明した以下の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	スギ花粉症は、第 2 次世界大戦後の高度経済成長期に初めて公式に確認された。
(イ)	スギ花粉症の有病率 (推計) は、21 世紀に入る直前の 2 割弱から 20 年後には約 4 割と増加している。
(ウ)	スギ花粉症の発症・悪化には、スギ人工林の成長に伴う花粉飛散量の増加や大気汚染、食生活の変化等による影響も指摘されている。
(エ)	近年、花粉の少ないスギ苗木が、全国のスギ苗木生産量の約 3 割を占めている。

### 問 3

J-クレジット制度についての、以下の記述のうち、最も適切なものはどれか。

(ア)	地球温暖化対策のため、省エネルギー設備の導入や森林整備等の取組による二酸化炭素等の温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして民間の第三者機関が認証する制度である。
(イ)	J-クレジットを発行する際のプロジェクト実施者は森林所有者に限られる。
(ウ)	森林吸収分野においては、吸収量算定に係る現地調査に代えて、航空レーザー計測データの活用ができる。
(エ)	森林吸収分野として承認されている方法論は、森林経営活動、植林活動、再造林活動、生物多様性保全活動である。

### 問 4

国税である森林環境税・森林環境譲与税について説明した以下の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	森林環境譲与税の活用状況を、令和 4(2022)年度の用途別の市町村数で見ると、間伐等の森林整備関係が最も多く、以下、人材育成・担い手の確保、木材利用・普及啓発の順に多かった。
(イ)	森林環境譲与税は、市町村による森林整備等の財源として、市町村と都道府県に対して、私有林人工林面積、林業就業者数及び人口による客観的な基準で按(あん)分して譲与されている。
(ウ)	森林環境税及び森林環境譲与税が同時に創設されたが、森林環境税の徴収に先立ち、森林環境譲与税の譲与が開始された。
(エ)	都市部の市町村では、流域・友好都市等で関係のある山村部の市町村と協定を結び、山村部における森林整備の支援、都市部住民の森林環境教育の実施等に森林環境譲与税を使う事例も増加している。

問 5

クリーンウッド法（「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」）に関連した事柄を説明した以下の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	違法伐採は、自然環境や生態系の破壊をはじめ、その国の木材収入や税収の損失などさまざまな問題を引きおこす。
(イ)	違法に伐採された不当に安い木材や、その木材を原料とする製材・加工製品が国際的に流通することにより、持続可能な森林経営のもとに生産された木材、製材・加工製品の流通が阻害されるなど、その悪影響は違法伐採が行われている国だけでなく取引先の国にも及ぶ。
(ウ)	合法伐採木材とは、日本または欧米諸国の法令に適合して伐採された樹木を材料とする木材等を言う。
(エ)	クリーンウッド法の施行により、全ての事業者は合法伐採木材等を利用するように努めることが求められ、特に木材関連事業者は、扱う木材等について、合法伐採木材等の利用を確保するための措置を実施することになった。

問6

森林施業プランナー制度について述べた以下の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	森林施業プランナーの認定制度は、国の新しい森林・林業政策の中で、提案型集約化施業を推進する技術者として森林施業プランナーが位置づけられ、その能力や技術を客観的に評価する仕組みが必要になったためである。
(イ)	林野庁は森林施業プランナーの現役認定者数を、2030年度までに3,500人にする目標を設定している。
(ウ)	森林施業プランナーは森林施業プランナー協会が運営する民間資格であり、国が認定する森林総合監理士とは位置づけが異なる。しかし、両者は、林業の現場においては、常にコミュニケーションをとり、連携協働しつつ現場の課題に取り組んでいく必要がある。
(エ)	森林施業プランナーを育成するための国による研修が、認定制度開始に合わせて始まった。現代的な林業に必要な知識・技能を網羅的に扱い、座学だけでなく、実習、ワークショップなども実施するスタイルが取られ、それは現在まで継続されている。

問7

林地の集約化について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	境界確認は森林所有者同士で決めてもらうのが基本であるが、それが難しい場合は、代わりに市町村の担当者に決めてもらうことができる。
(イ)	集約化施業によって森林の所有を超えた広さで長期的な森林のビジョンを描くことができるので、生物多様性にも配慮した健全な森林生態系への誘導も可能となる。
(ウ)	林地の集約化により、木材の搬出のために効率的な路網整備が可能となる。
(エ)	複数の森林所有者の合意を促し、林地の集約化を進めることは、森林施業プランナーの重要な任務である。

問8 森林施業プランナーの姿として、最も不適切なものはどれか。

(ア)	プランナーの中には、現場技能者として採用され、現場を経験してからプランナーになる人もいる。
(イ)	IT技術の進歩は、近年、非常に急速であり、その速度に追いついていくため、プランナーにはこの分野の高度な専門性が求められている。
(ウ)	プランナーは、森林組合などの林業事業体に所属していることが多いが、自分が所属している事業体への貢献だけでなく、地域全体の森林管理にも貢献する意識が必要である。
(エ)	プランナー業務は多岐の分野にわたり、「六能職員」という言葉があるように、多様な能力について専門性を要求される。

問9 森林施業プランナー、森林総合監理士と森林計画の関係についての下記の文章について、【 】部分を埋める語句として、最も適切な組み合わせはどれか。

森林計画は、全国森林計画—地域森林計画—市町村森林整備計画—森林経営計画という構造になっているが、地域森林計画編成の実務は、【①】が行う。これに対して、市町村森林整備計画編成の実務は、【②】が、【③】などの支援を受けて行う。さらに、個別の森林経営計画は、【④】などの助言を受けつつ、森林所有者または森林所有者の代理人として【⑤】などが作成する。

(ア)	①都道府県職員、②市町村職員、③森林総合監理士、④森林総合監理士、⑤森林施業プランナー
(イ)	①森林総合監理士、②市町村職員、③森林総合監理士、④森林施業プランナー、⑤市町村職員
(ウ)	①都道府県職員、②市町村職員、③森林総合監理士、④森林施業プランナー、⑤市町村職員
(エ)	①森林総合監理士、②森林総合監理士、③森林施業プランナー、④市町村職員、⑤森林施業プランナー

問 1 0

森林施業プランナーの関与が期待される、森林資源を活かした需要創造について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	森林組合等林業事業体は、社会の趨勢に従って、「森林サービス産業」などの森林の多面的利用にも積極的に関心を寄せるのが望ましい。
(イ)	樹種や林齢など林分を多様化する分散投資的な考え方も必要である。
(ウ)	川上に対する原木の安定供給の要求が高まっていることから、施業提案等の森林所有者とのコミュニケーションの過程をできるだけ簡略・迅速化し、計画的な木材生産を進める必要がある。
(エ)	AI（人工知能）や、ICT（情報通信技術）を活用し、またドローン等を用いて資源を適切に把握することは、森林組合等林業事業体の経営のために必須である。

問 1 1

森林経営計画の対象となる森林について、最も適切なものはどれか。

(ア)	対象森林は、私有林であり、公有林は含まない。
(イ)	林班計画は、単一の林班面積の2分の1以上の面積規模であること。
(ウ)	区域計画は、都道府県が定める一定区域内において、30ha以上の面積であること。
(エ)	林班計画と区域計画のいずれも、林班等内または区域内で自ら所有経営している森林及び森林の経営を受託している森林のすべてを対象とする必要がある。

### 問 1 2

提案型集約化施業を行う際に欠かすことのできない重要な作業である「森林の境界確認」について、最も適切なものはどれか。

(ア)	公図の多くは、明治時代の地租改正に伴い作成されたもので、現況を正確に反映している。
(イ)	境界標は、境界の目印のために人工的に設置したもので、人為的な移動が可能であり、信頼性に欠ける。
(ウ)	実測図として信頼性の高いものとしては、土地区画整理法に基づく確定図や国土調査法に基づく地籍図などがある。
(エ)	尾根、谷、沢などの自然地形は変化することがないので、境界確認にそのまま利用することができる。

### 問 1 3

適切な集約化を進めるための取組みの一つである座談会の開催の仕方として、最も不適切なものはどれか。

(ア)	プランナー自身が森林所有者の立場になり、施業の承諾を得るためにはどのような説明が必要か、という観点から準備を行う。
(イ)	座談会で説明すべき項目は、収支の見込みが主体となる。
(ウ)	座談会での説明は、参加者が理解できるように心がけるべきである。
(エ)	森林所有者の中には森林・林業についての知識に乏しい人もいるので、説明では専門用語はなるべく使わないようにし、説明のサポート役として、森林総合監理士や市町村職員などに同席してもらうのがよい。

問 1 4

施業団地の設計について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	森林経営計画の対象林分のすべてについて施業団地を設定し、計画期間中に施業を完了することは求められていない。
(イ)	施業団地の設計に当たっては、生産対象である森林資源の状況、作業が実施可能な地形か、現地までのアクセス道の状況、土場の設置箇所、森林作業道の進入箇所等を確認し、適切な団地を設定する必要がある。
(ウ)	施業団地の設計に当たっては、まず、生産対象物は何であり、どのような条件であれば、その対象物を適切なコストで生産・販売できるかを考えることが必要である。
(エ)	施業団地の設計に当たっては、持続性や環境保全よりも採算性を重視すべきである。

問 1 5

森林施業プランナーが現場技能者へ行う作業の指示について、最も適切なものはどれか。

(ア)	施業指示書を作成し、現場技能者への指示を明確にする。所有者への説明のために作成した森林施業提案書は目的が異なるので、参考にとどめる。
(イ)	施業指示書には、施業内容、森林所有者の意向などが書かれるが、施業の進め方、現場作業時の留意事項などは現場管理責任者が決めることなので、指示書には書かないように注意する。
(ウ)	プランナーは、施業指示書を現場管理責任者に渡した後は、作業の進捗管理や仕上がりは現場管理責任者に一任する。
(エ)	プランナーと現場技能者の打ち合わせは、特に施業の目的と内容について、両者の認識を合わせることを目指す。

問 1 6

森林経営計画の主な記載事項として、最も適切なものはどれか。

(ア)	森林の経営に関する短期の方針
(イ)	計画対象森林の現況並びに植栽及び下刈りの施業履歴
(ウ)	伐採（主伐、間伐）、造林及び保育の実施計画
(エ)	森林環境教育に関する事項

問 1 7

森林がもたらす生態系サービスについて、最も適切なものはどれか。

(ア)	生態系サービスのうち、森林がもたらす調整サービスの一つが水の供給である。
(イ)	林分成立段階では各種サービスは低下し、特に生物多様性の低下が著しい。
(ウ)	木材生産以外の生態系サービスは、老齢段階で最大を迎える。
(エ)	観光レクリエーションは、森林生態系を破壊する危険性があり、生態系サービスには含めない。

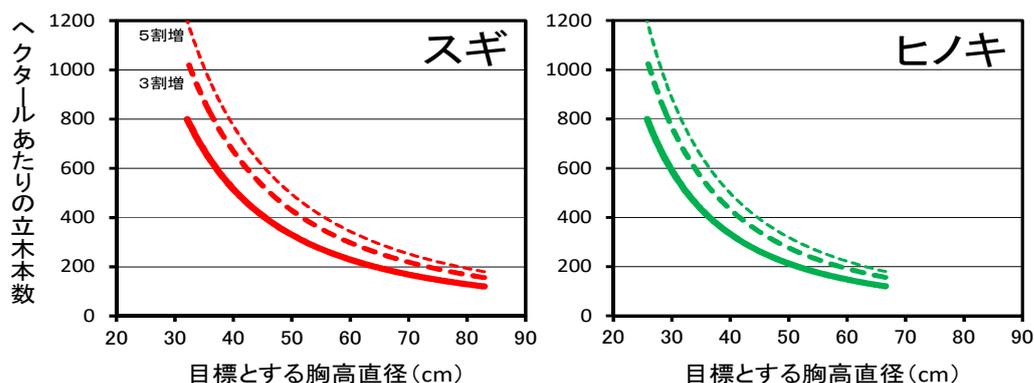
問 18

森林における生物多様性保全について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	溪畔林では、溪流沿いの倒木が流路内に倒れこむことにより、溪流に多様な動物の生息環境が提供される。
(イ)	森林を皆伐することにより、猛禽類が採餌可能な環境を作ることができる。
(ウ)	林分成立時の明るい環境は生物多様性を高める。
(エ)	多くの鳥類にとって、立ち枯れ木や倒木のない森林が生息環境として適している。

問 19

経済林における目標林型を説明した文章として最も不適切なものはどれか。  
 なお、以下の図「目標林型における胸高直径と立木密度の関係」も参考にして答えよ。



(凡例)

—————	：推定される立木本数と胸高直径の関係
- - - - -	：立木本数が 3 割多い場合に推定される立木本数と胸高直径の関係
.....	：立木本数が 5 割多い場合に推定される立木本数と胸高直径の関係

(ア)	ヒノキの一斉林における生産目標を平均胸高直径 30cm に設定し、最終的な本数密度を約 600 本/ha とした。
(イ)	スギの比較的年輪の詰まった中径材生産を目指して、平均胸高直径を 40cm、本数密度を 1000 本/ha とすることにした。
(ウ)	スギの一斉林で長伐期施業を行って大径材に仕立てることを考え、目標林型として主林木の平均胸高直径が 50cm、本数密度約 300 本/ha とした。
(エ)	10 齢級のヒノキ人工林の概況を調べたところ、平均胸高直径 40cm、成立本数は 320 本/ha だった。この結果にもとづいて目標林型を平均胸高直径 50cm、本数密度約 200 本/ha の林分とした。

問 2 0

ある林木を測定したところ、以下の数値が得られた。それから求められる樹冠長率と形状比の正しい組み合わせはどれか。

胸高直径：30cm

樹高：26m

枝下高：16m

(ア)	樹冠長率：38%	形状比：87
(イ)	樹冠長率：61%	形状比：87
(ウ)	樹冠長率：61%	形状比：115
(エ)	樹冠長率：38%	形状比：115

問 2 1

針葉樹人工林の間伐に関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

(ア)	目的樹種を目的外樹種による被圧から守るために、目的外樹種を取り除く作業である。
(イ)	間伐を適切に行うと、気象災害（風害や冠雪害など）に対する林分の耐性が向上するが、水源涵養機能が高くなるわけではない。
(ウ)	無節性を高くするために不可欠の作業である。
(エ)	森林が混み過ぎて不健全になることを防ぐ目的で、間引きをする作業である。

問 2 2

列状間伐に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	列状間伐は、かかり木の発生リスクが低い。
(イ)	間伐を緊急に行う必要があり、多少の利益もあげたいとき、1伐2残などの方法で軽度に行うのが良い。
(ウ)	列状間伐は、作業コストが軽減され、必ず採算性が向上する。
(エ)	列状間伐では、形質の良い木も悪い木も伐採される。

問 2 3

将来木施業を応用した人工林の施業に関して最も不適切な記述はどれか。

(ア)	不健全になりつつある林分を、大径材生産を目標とした林型に向けて比較的安全に誘導する方法である。
(イ)	将来木の本数は、目標成立本数に対して多くし過ぎないほうがよい。
(ウ)	将来木を選ぶ基準は、バイタリティー（樹冠の大きさ）、形質、配置である。
(エ)	将来木の成長を阻害する優勢木は、1回の間伐ですべて伐るのがよい。

問 2 4

人工林の目標林型について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	目標林型を持っていれば、森林管理の方針をきちんと立てることが可能になる。
(イ)	人工林では、経済的合理性と技術的合理性の二つの視点から目標林型を設定すべきである。
(ウ)	人工林では、木材生産以外を目的とする目標林型はあり得ない。
(エ)	目標林型を考えると、特に間伐のあり方が重要になってくる。

問 2 5

用材生産を目的とした広葉樹施業について、最も適切なものはどれか。

(ア)	高齢化した広葉樹であっても、多くの場合、その切り株から萌芽更新が期待できる。
(イ)	広葉樹の造林地に天然更新した広葉樹は、樹種によってはそのまま育てるという選択もできる。
(ウ)	立地環境への適応度合いは、広葉樹も針葉樹もそれほど変わらない。
(エ)	広葉樹の苗は針葉樹に比べて細根を多く持ち、活着率がよいのが特徴である。

問 2 6

わが国の民有林における路網について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	林内路網とは、林道、林業専用道、森林作業道、さらに場合によっては公道等を含む道路の総称である。
(イ)	林道は森林整備や木材生産のための幹線道で、恒久的施設であるが、公共施設ではない。
(ウ)	林業専用道は、森林施業のために特定者だけが利用する恒久的施設である。
(エ)	森林作業道は、間伐などの森林整備を推進するために開設される施設で、メンテナンスしながら継続的に使用される。

問 2 7

全国に共通する森林土壌の断面構造について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	最上層をA <sub>0</sub> 層と言い、落ち葉などの層である。
(イ)	A層は腐植を多く含む層で、暗い色をしている。
(ウ)	B層は、明るい色調で腐植が少ない鉱質土層である。
(エ)	C層は、風化が十分に進行しているために土壌構造が発達している。

問 28

森林作業道を計画するにあたり気を付けるべき説明で、最も適切なものはどれか。

(ア)	住宅の裏山や道路・鉄道の上方などには、作業道を開設すべきでない。
(イ)	基本設計が多少、誤っていても、実際の施工における技術で十分にカバーできる。
(ウ)	小河川や谷川を渡るには、出来るだけ暗渠を設置するのがよい。
(エ)	土石流のメカニズムはまだ十分に解明されていないので、その発生の可能性をあまり気にする必要はない。

問 29

路網の配置計画について、最も適切なものはどれか。

(ア)	縦断勾配は 25%以内が妥当で、短区間に限り 30%以内とする。
(イ)	現場の土で道をつくと自然条件に適合しているので、時間が経っても風化せず、山側も路肩側も道が狭くなることはない。
(ウ)	ドローンによる撮影技術などが発達しているので、現地を踏査して路線を決める手続きは不要である。
(エ)	土質によっては、路網を開設せずに、架線集材やヘリコプター集材を行うほうがよい場合がある。

問 3 0

作業道の設計と施工について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	急峻に見える地形であっても、やや緩やかな箇所が交互に、波打つように連なっていることがある。その緩やかな箇所はタナと呼ばれている。
(イ)	路面の両端よりも道路の中央が盛り上がったカマボコ型の作業道は、降雨後の乾燥が早い。
(ウ)	切土はのり高が高くても、直切りすれば、崩れる心配はない。
(エ)	盛土は 30cm の層ごとに転圧したうえで、1 割 2 分の土羽打ちにするのが基本である。

問 3 1

作業道の水処理について、最も不適切なものはどれか。

(ア)	切土面から常時、湧水が出ていても、少量であれば無視してもよい。
(イ)	涸れ沢の上部には排水しない。
(ウ)	洗い越しを設置するとき、水路に横断勾配をつけておくと円滑に排水できる。
(エ)	横断排水は、排水してもすぐに散ってしまう尾根付近か、あるいは常水のある谷へ流すのがよい。

問 3 2

低コスト作業システムについて、最も適切なものはどれか。

(ア)	大型機械を組み合わせた作業体系の確立が最も重要である。
(イ)	生産性を高くするため、多少の環境破壊を行ってもやむを得ない。
(ウ)	コスト以外に、製品の規格やサプライチェーンも意識すべきである。
(エ)	コスト管理や工程管理が大切で、路網整備、土場の配置、労務管理などは考えなくてよい。

問 3 3

林業機械に関する説明のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	伐倒を行う大型林業機械は、ハーベスタとフェラーバンチャである。
(イ)	フォワーダによる集材は、積み込み、荷下ろしの際の操作技術やグラップル容量により生産性が変動する。
(ウ)	プロセッサは枝払い、玉切り、集積など多工程の作業を行う機械で、林業機械のなかでも能率が高い。
(エ)	架線集材は急傾斜地と全木集材に適しているが、車両系集材に比べて燃費が悪い。

問 3 4

作業システムの基本原則について、最も適切なものはどれか。

(ア)	工程ごとの作業重複時間はシステム全体の作業時間に影響しない。
(イ)	工程数を少なくできれば作業の能率が上がる。
(ウ)	工程間の生産性のバランスは、あまり重要ではない。
(エ)	ネックとなる工程の時間を無理に短縮しようとせず、他の工程の時間を短縮することによって補うのが合理的である。

問 3 5

次の資料は、ある列状間伐の作業日報を集計したものである。付属データと合わせて、以下の設問に答えよ。

技術者	6月 1日	2日	3日	4日	5日	8日	9日	10日	11日	12日
A	伐倒	伐倒	伐倒	—	伐倒	伐倒	伐倒	—	—	—
B	伐倒	伐倒	—	伐倒	伐倒	伐倒	伐倒	伐倒	—	—
C	伐倒	集材	集材	集材	集材	—	土場	集材	集材	集材
D	伐倒	造材	造材	土場	造材	造材	造材	—	土場	土場

【作業工程】

伐倒 チェーンソーによる伐倒作業

造材 プロセッサによる作業道上での造材・集積作業(木寄せを含む)

集材 フォワーダによる積込み、運搬、土場での積下ろし作業

土場 グラップルによる土場での仕分け・樅(はい)積み作業

★ — 印は他の施業地で作業していたことを示し、計算に含めない。

★伐倒作業における1日の振動ばく露時間は2時間以内だったとする。

【施業地および間伐作業の概要】

施業面積 : 2.0 ha

作業前成立本数 : 1,400 本/ha

本数間伐率 : 30%

単木材積 : 0.4m<sup>3</sup>

採材歩留り : 45%

【人件費および機械経費】

人件費 : 23,000 円/人日

機械経費 チェーンソー : 1,500 円/台日

機械経費 プロセッサ : 32,000 円/台日

機械経費 フォワーダ : 20,000 円/台日

機械経費 グラップル : 14,000 円/台日

設問1 この施業地における出荷材積は次のうちどれか。小数点以下は切り捨てること。

(ア)	151m <sup>3</sup>
(イ)	75m <sup>3</sup>
(ウ)	336m <sup>3</sup>
(エ)	226m <sup>3</sup>

設問2 この施業地における伐倒から土場作業までの労働生産性は次のうちどれか。小数点以下第2位を四捨五入すること。

(ア)	10.8m <sup>3</sup> ／人日
(イ)	2.4m <sup>3</sup> ／人日
(ウ)	7.3m <sup>3</sup> ／人日
(エ)	4.9m <sup>3</sup> ／人日

設問3 人件費と機械経費の合計を直接事業費とした場合、出荷材積1m<sup>3</sup>あたりの直接事業費は次のうちどれか。なお、人件費には各種手当・福利厚生費などが含まれており、機械回送料や施業雑費は無視するものとする。小数点以下は四捨五入すること。

(ア)	4,830円／m <sup>3</sup>
(イ)	7,228円／m <sup>3</sup>
(ウ)	3,249円／m <sup>3</sup>
(エ)	14,553円／m <sup>3</sup>

問 3 6

林業現場の工程管理に関して、最も適切なものはどれか。

(ア)	工程管理は組織力の向上につながるが、個人の能力向上にはつながらない。
(イ)	林業の作業現場は一様であり、工程数が少ないので、工程管理は容易である。
(ウ)	作業をシステム化して工程管理を行うと、仕事の質が上がり、コストダウンに結びつく。
(エ)	工程管理と、現場における問題の早期発見・早期対策は全く別の課題である。

問 3 7

原価計算と原価管理に関して、最も不適切なものはどれか。

(ア)	サービスを提供するために必要な費用は、物をつくる工程ではないので、原価には入らない。
(イ)	原価を集計することを原価計算という。
(ウ)	集計した原価に基づいて現場を管理することを原価管理という。
(エ)	原価を分析して作業方法などの改善策をたてることも原価管理の一つである。

問 3 8

次の図表は、提案型集約化施業における収支構造を示したものである。図表中の①、②、③、④にあてはまる最も適切なものはどれか。

補助金	事業体利益	
	②	
①	③	販売費
		木材販売費
	事業費	④
直接事業費		
		間接事業費

(ア)	①総原価	②負債返却金	③現場管理費	④販売手数料
(イ)	①木材売上	②所有者への支払い金	③総原価	④木材運搬費
(ウ)	①総原価	②所有者への支払い金	③現場管理費	④木材運搬費
(エ)	①木材売上	②負債返却金	③総原価	④販売手数料

問 3 9

ある年度、A 林業事業体の実績は固定費 40,000,000 円、変動費 35,000,000 円、売上高 100,000,000 円だった。この林業事業体の損益分岐点売上高は次のどれか。ただし小数点以下を四捨五入すること。

(ア)	61,538,462 円
(イ)	29,629,630 円
(ウ)	58,333,333 円
(エ)	25,000,000 円

問 4 0

木材の販売に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	最近、原木市場に持ち込まず、製材工場等に直接持ち込む直送と呼ばれる木材販売方法が増えている。
(イ)	木材を有利に販売するには、新たな販路の開拓や地域材のブランド化などの方法があり得る。
(ウ)	森林施業プランナーは、森林所有者から木材販売を委託されたら、できるだけ森林所有者に利益が残る販売方法を考えるべきである。
(エ)	木材価格は一般に、国産材の需要と供給の関係で決まる。

問 4 1

林業機械の減価償却について述べた記述のうち、最も適切なものはどれか。

(ア)	減価償却の方法は定額法だけである。
(イ)	減価償却費は外部への支出である。
(ウ)	購入費用を法定耐用年数に分散して計上する会計処理の方法を減価償却という。
(エ)	法定耐用年数と実際の機械の寿命は一致する。

問 4 2

労働安全衛生管理について述べた記述のうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	労働基準法に則した労働安全衛生法と労働安全衛生規則が、労働安全に関する最も基本的な法令である。
(イ)	労働安全に関連した法令は、安全な作業を実施する際の最低限の決まりを定めているだけで、具体的な実践方法の策定は都道府県に委ねられている。
(ウ)	労働安全衛生管理を進めるには、計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Act)というPDCAサイクルを実施する必要がある。
(エ)	ある研究は、事業者が労働安全衛生にかけた費用は2.7倍の効果を生むとしている。

問 4 3

リスクアセスメントの説明として、最も適切なものはどれか。

(ア)	危険を読み、災害の芽をつむのがリスクアセスメントである。
(イ)	リスクの特徴として、リスクははっきりしている、リスクは必ず存在する、リスクを減らすと別のリスクが増える、などを挙げることができる。
(ウ)	リスクアセスメントの手順は、「危険要因の洗い出し」→「リスクの見積もり」→「リスクの評価」→「評価結果の労働基準監督署への届出」→「リスク低減対策の検討と実施」→「内容の記録」である。
(エ)	リスクアセスメントの結果を作業工程の検討に活かすが、新規就労者の教育に用いる必要はない。

問 4 4

林業労働災害に関する記述のなかから最も不適切なものを選べ。

(ア)	林業労働の死傷者数は中長期的には減少傾向にある。
(イ)	2022（令和4）年の林業労働災害を死傷年千人率で見ると、全産業平均のおよそ10倍に達している。
(ウ)	伐木作業中の死亡災害が多いが、かかり木の処理はそれほど危険ではない。
(エ)	林業労働災害の特徴の一つとして、被災状況が目撃されず、発見に時間を要する場合がある。

問 4 5

安全作業のポイントに関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

(ア)	伐倒作業の場合、伐倒木の樹高と同じ距離を半径とする円形の内側は、伐倒者以外の者の立ち入りが禁止されている。
(イ)	伐倒方向は常に斜面の下側に向けるのが安全である。
(ウ)	架線集材の場合、重なっている材のうち下方の材から荷かけしても、特に問題はない。
(エ)	架線集材でも車両系集材でも、荷かけは斜面の上側から行うのが安全である。

問 4 6

合意形成とコミュニケーションに関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

(ア)	コミュニケーションを図る上で大切なことは、課題の内容をフィードバックすることと森林施業プランナーの自己顕示欲である。
(イ)	参考図書を多く読んで知識を身に付けると、合意形成力を高めることができる。
(ウ)	検討プロセスの公平性と透明性を高めながら、関係者の多様な価値観や意向を引き出し、そのうえで相互の意見の一致を図る基本姿勢が重要である。
(エ)	森林施業プランナーが合意形成を図る際に大切なのは森林所有者の意見であり、森林総合監理士や自治体関係者などの意見は無視できる。

問 4 7

職場外の人を対象にした説明会でコミュニケーションを図る際に、最も適切なものはどれか。

(ア)	説明会を開催した実績が重要なので、平日の日中に開催するのも有効である。
(イ)	参加者から出たクレームはチャンスであるにとらえ、森林施業プランナーは次回の説明会で回答するために、必要な努力をすべきである。
(ウ)	森林施業を「やってあげる」という気持ちを持つことが大切である。
(エ)	説明会では、円滑な合意形成のために、反対意見を述べる参加者には発言を控えていただくとよい。

問48

チームリーダーとしての森林施業プランナーが留意すべきことのうち、最も不適切なものはどれか。

(ア)	実現したい目標を達成していこうとする強い信念と志を持つ。
(イ)	意見の食い違いを、有無を言わず一つにまとめる決断力が求められる。
(ウ)	ビジョンを具現化するためのロードマップ（計画書）を作成する。
(エ)	チームメンバーの個性と能力を理解し、メンバー一人一人のモチベーションが向上するように努める。

本文書の内容の無断転載・複写・複製を禁じます。